表1 乳頭側面付着細菌数の対数減少率

群	総分房数	プレディッピング前細菌数 ¹⁾	乳頭清拭後細菌数 ¹⁾	対数減少率 ²⁾
過酸化水素	72	4.40±1.17	2.05±0.80	2.38±0.94
ヨウ素	72	4.36±1.18	1.80±0.77	2.55±1.00

1) 常用対数值 (平均値±標準偏差) 2) 対数減少率=プレディッピング前細菌数-乳頭清拭後細菌数

表2 乳頭皮膚の荒れスコア

群	供試期間	総分房数	各スコア別総分房数			
			-	+	++	その他
過酸化水素	181-242	72	72	0	0	0
ヨウ素	181-242	62	62	0	0	0

乳頭皮膚の荒れスコア - : なし、+ : ひび割れ、++ : びらん、その他 : 外傷等

表3 新規乳房炎発生率

試験期間	群	総分房数	平均供試日数	分房・日	新規乳房炎発生分房数			発生率*	P値
					臨床型	潜在型	計		
①2011年8月 ~2012年2月	過酸化水素	84	110.6	9,292	3	6	9	0.00097	0.93
	ヨウ素	88	112.9	9,932	5	5	10	0.00101	
②2012年4月 ~7月	過酸化水素	128	94.5	12,100	0	2	2	0.00017	0.18
	ヨウ素	139	92.9	12,930	4	3	7	0.00054	
③2013年7月 ~2014年2月	過酸化水素	116	178	20,648	14	3	17	0.00082	0.26
	ヨウ素	126	164.4	20,560	10	1	11	0.00054	

* 発生率=新規乳房炎発生分房数/分房・日

表4 起因細菌種別の乳房炎罹患分房数

群	起因細菌*	試験期間			
		①	②	③	
過酸化水素	環境性	EC	0	0	1
		OS	1	0	4
		CNS	4 (56%)	1 (50%)	5 (65%)
		T.pyo	0	0	1
	伝染性	SA	2	1	3
		その他	2	0	3
計		9	2	17	
ヨウ素	環境性	EC	0	1	1
		OS	3	2	4
		CNS	3 (60%)	1 (57%)	2 (64%)
		T.pyo	0	0	0
	伝染性	SA	2	3	1
		その他	2	0	3
計		10	7	11	

* EC: 大腸菌 OS: 環境性連鎖球菌 CNS: コアグラウゼ陰性ブドウ球菌 T.pyo: トウルベシラ・ピオグネス SA: 黄色ブドウ球菌 その他: 菌の未検出または乳汁の採取不可 括弧内の数値: 起因細菌中の環境性細菌の割合

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。
 道総研根釧農業試験場 研究部 乳牛グループ 窪田明日香
 電話 (0153) 72-2004 FAX (0153) 73-5329
 E-mail: kubota-asuka@hro.or.jp